

地域社会の事柄に関心を持ち、自分を見つめることができる児童の育成 ～新聞を活用した学び合い活動を通して～

椎葉村立不土野小学校
教諭 橋本 憲二

1 はじめに

本校は、今年度、11月に開催された第22回椎葉村へき地教育研究大会会場校として、平成27年度より2年間をかけて研究を進めてきた。研究のテーマは極小規模である全校児童8名という学校の中で「学び合う児童の育成」を目指して、村の重点施策の一つであるICT機器の活用を図っての授業公開・研究会を行った。ICTの活用について研修を深めていく中で、情報に関わる活用能力や処理能力、そして発信する力を養うことの大切さを痛感した。また発信するためには、もっと地域社会を含めた社会全体の様子に関心をもたせることの重要性を感じた。そこで宮崎県NIE推進協議会の独自認定校に希望して指定を受けることになり、今年度、ICT活用の研究とともに実践することになった。

本校は、椎葉村の南西部に位置し、村中央部から車で40分の場所にあり、主に農林業や酪農が中心となっている地区である。新聞については、お昼に郵便物とともに届くという朝刊ならぬ“昼刊”である。全校児童8名の極小規模校であり、家庭で新聞購読をしているところはない。児童の主な情報源はテレビであり、児童の会話に出てくる内容は、娯楽番組やアニメ番組などのことが主流である。つまり、新聞から情報を得たり、活用したりする場合は、学校が中心となる。これらの現状の中で、児童が新聞を活用しながら、地域社会への関心を持ち、自分を見つめることができるための実践に取り組むことにした。

2 本校ならではのNIE教育の考え方

本校において、新聞を活用するにあたっては、まずは、新聞が難しいものではなく、気楽に楽しめるものであるということが重要である。写真や作文の投稿、4コマ漫画など動機付けになる記事について取り上げていくことが活動の動機付けになる。

そこで、図1のタテ軸のような考えからNIE活動を行っていくことを職員で共通理解をして実践していくことにした。

全学年での共通実践を図っていくために全児童に対してA3判のスクラップブックを準備して、NIE活動の時間や授業などで興味や関心をもった記事を切り取り、貼っていくようにした。貼る際は、「新聞名」「日付」とともに、「なぜその記事を選んだのか」「感想」を記入させるようにした。

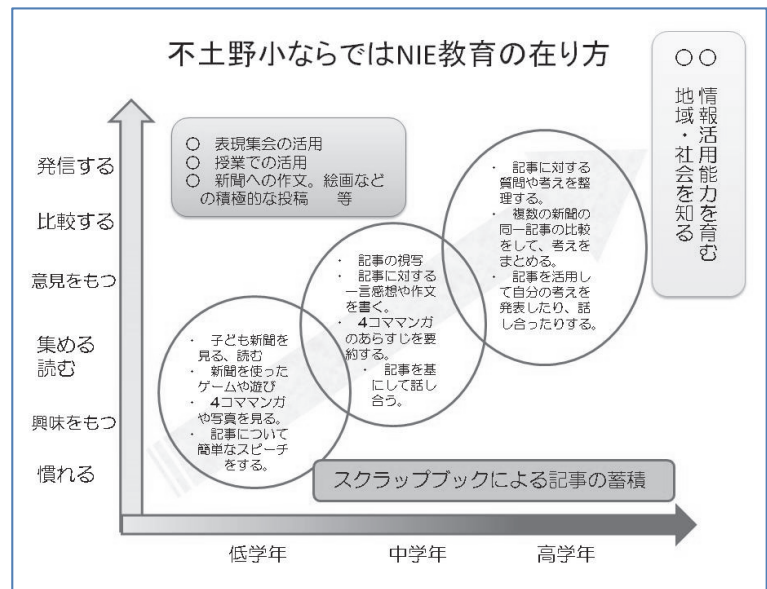


図1 NIE教育の考え方模式図

3 実践事例

(1) 業前活動を使った NIE 活動

本校でのNIE教育の中心となる活動は、業前活動の時間である。業前活動の計画は、表1のような計画で行った。届いた新聞は、図書室の中央の机で自由に閲覧できるようにしたことから、児童は、活動時間や授業中だけでなく、自由に読むことができるようにした。

業前活動では、主に、次のような内容で活動を計画して実践を進めた。

- スクラップブックに気に入った記事を貼り、簡単な感想を記述する。
- 気に入った記事について、選んだ理由と記事に対する感想や意見を発表する。また、その発表に対して意見の交換を行う。

このような基本的な活動は、主に表現することを目的に実践を行った。回数を重ねる度に記事の内容について自分の考えを言えるようになってきた。

低学年においては、上学年の児童が、新聞記事をきっかけに様々なことを調べて、更に話題が広がっていく面を見て、大変参考になっていたようである。

業間活動は、月行事計画の中で、どのような内容で行うか担当が提案するとともに、全担任が共通理解の基に指導ができるように、右のような活動計画案を作成して活動に取り組んだ。評価をしていくことで、活動の在り方を再考する上で大変役にたった。

(2) 新聞への作文や作品の投稿

昨年度、8名の在籍児童が1回ずつ全員掲載され、保護者の新聞に対する認知度が少し上がってきた。そこで、今年度は、作文だけではなく、写真、絵、習字などについても積極的に投稿を行った。また、宮崎日日新聞社の作品募集にも積極的に投稿をした。学校の正面玄関には、掲載された記事をコピーして担任が一言添えて掲示するようにした。今年度の児童の新聞掲載は30点近くあり、多い児童で4回の掲載となった。

同時に担任自身も応募し、全員掲載された。

| 活動内容 | |
|------|------------------|
| 月 | 全校読書（新聞スクラップ） |
| 火 | 不土野っ子ファイト（体力向上） |
| 水 | NIE 活動 |
| 木 | 不土野っ子ファイト（体力向上） |
| 金 | NIE 活動 学力向上 |



【業前活動の様子】

| NIE 活動計画案 | | | |
|--|--|--|-------------------|
| 1 活動概要 | | | |
| 指導者 | T1: 児玉真理 T2: 植野裕大、橋本憲二 | 【記録】 楳原宏美 | |
| 期 日 | 平成29年1月26日（木曜日） | 活動時間 | 不土野っ子タイム（業前活動） |
| 活動名 | 新聞記事の写真をについて話し合おう | 活動時間 | 13:40～13:55 |
| 活動の目標 | ◎ 自分が見つけた写真に見出しを付け、その理由を発表したり、思ったことや感じたことを発表することができる。 | | |
| 関連教科等 | (低) 国語科 (中) 国語科 (高) 国語科 | | |
| 2 事前の活動 | | | |
| 活動期日 | 平成29年1月20日（金曜日） | 設定時間 | 不土野っ子タイム（業前活動） |
| 活動内容 | (1) 1月19日までの新聞から、自分が気になる写真付きの記事を選ぶ。 (2) 発表の写真を決めて、スクラップブックに貼る。 (3) 貼った写真を、タブレットで写真にとっておく。 (4) 見出しを考え、その理由などを整理しておく。 | | |
| 3 本時の活動計画案 | | | |
| 時 | 活動内容 | 指導上の留意点 | 準備物 |
| 0 | 1 本時の活動内容を知り、それぞれ発表の準備をする。 | ○ 発表する時や聞く時のきまりについて確認させ、発表のめあてを立てさせる。 | めあてボード |
| 3 | 2 資料の写真について、モニターの前で発表する。 (1) 今日の発表のめあて (2) 考えた見出し (3) 付けた理由や写真をみた感想を言う。 | ○ 発表時間は1分以内とし、事前に練習をさせておく。 ○ 見出しとその理由は、「～だからです」という形式で具体的に述べさせる。 | 大型モニター タブレット端末 |
| 12 | 3 学び合いをする。 1つの4コママンガを提示して、「何が面白いのかを話し合おう。」 | ○ 児童の考えを自由に発表させるようにするが、読み手の考えや思いを尊重するように心掛けさせる。 | 大型モニター |
| 15 | 4 次の活動について知る。 | | |
| 4 本時の評価 ※5段階評価 A:とてもよい B:よい C:普通 D:もう少し E:改善 | | | |
| 学年 | 評価項目 | 評価 | |
| 低学年 | ○ 写真に対する見出しや理由が発表できたか。 | A・B・C・D・E | |
| 中学年 | ○ 理由をつけて発表ができ、感想を伝えることができたか。 | A・B・C・D・E | |
| 高学年 | ○ 写真から感じたことを付け加えたり、相手を認める意見を言ったりすることができたか。 | A・B・C・D・E | |
| 5 事後活動 | | | |
| 学年 | 事後活動 | 活動方法予定 | |
| 低学年 | ○ 興味のある写真について100字程度の作文を書く。 | 教科指導・家庭学習・作文等 その他 | |
| 中学年 | ○ 自分が選んだ写真について、400字程度の意見文を書く。 | 教科指導・家庭学習 (作文等) その他 | |
| 高学年 | ○ 自分が選んだ写真と記事について、400字程度の作文を書き、投稿する。 | 教科指導・家庭学習 (作文等) その他 | |



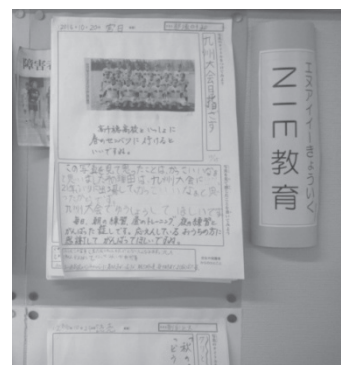
【掲載記事を掲示したNIEコーナー】

(3) 家庭学習で活用する工夫

当初、慣れることを目的に、新聞をそのまま持ち帰らせ、その中から気に入った記事を選択し、感想を書いてくるという宅習の在り方を検討した。しかし、記事を読まずに写真だけにこだわったり、切ったはよいが記事が途中だったりという課題が出てきた。

そこで、ワークシートを作成し、そのワークに気付いたことや感想を書かせるなど、的を絞った宅習の在り方を実践した。

右の写真は、3・4年生の実践であるが、宿題としてワークシートに写真を貼り、記事を読んだ感想と写真から感じ取れることを100字程度で書いてくる。翌日、その感想について学級の他の児童や担任に読んでもらい、コメントを書いていくようにした。終了後は、廊下に掲示して他の学年の児童や先生方、保護者に読んでもらえるようにした。



【展示したワークシート】

(4) 授業での新聞記事の活用

① 国語科での実践

4年生の国語科では、新聞を活用する単元が1学期と3学期に設定されている。椎葉村で行われている集合学習の際に宮崎日日新聞社が行っている出前授業『学校に宮日がやってくる』を活用して、新聞の写真の意義や写真から伝えたい記者の意図を学んだ。2社の新聞に使われた熊本地震の被害現場の写真が、なぜトリミングされて掲載したのかを、記事と比べながら児童に話し合わせた。写真と記事の相関関係を児童は学ぶことができた。



【出前授業の様子】

② 算数科での実践例

3年生単元『表とグラフ』の中で、集計したデータを棒グラフ化する学習である。教科書の中では、学級にアンケートを取り、それらのデータで棒グラフを作成するという活動を行う。しかし、本校では複式学級で全校児童が8名であることからデータ量に乏しい。そこで、宮崎日日新聞の『若い目』『窓』の欄に注目して、投稿者全員の市町村を調べ、それらを1週間毎の棒グラフにするようにした。データ量も必然的に50近くになり、棒グラフにすることで、掲載者の傾向をつかむことができた。

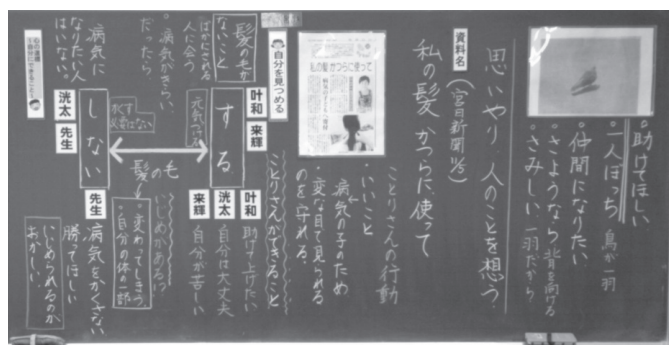


【算数の授業を受ける3年生】

これらの活動は、宮崎県の市町村の学習にもつなげると同時に、作文の題名のつけ方、どんな投稿をすればよいのかなどを国語科や社会科、総合的な学習の時間と関連づけをもたせた指導を行い、業前活動で行うNIE活動の発表につなげることができた。

③ 道徳での実践例

「思いやり」について考える道徳の授業において、ガン患者の方のカツラ作りに役立てるために自分の髪を伸ばしている小学生を取り上げた記事を活用した。記事は、NIE活動で読んでいる内容であったことから、更に深く読むということにつながる授業となった。



【道徳での実践例】

4 成果と課題

(1) 成果

- 児童が自ら新聞に触れる機会は少なかったが、一人一人がスクラップブックをもつことにより、自分の興味や関心に基づいて積極的に記事を収集するようになった。その中では、児童同士が記事の共有をしたり、しっかり読んでから貼ったりするようになってきた。
- 児童の日常的な会話の中に、新聞記事に関する話題について話すことが多くなり、テレビで知ったニュースについて新聞で調べるような場面も見られるようになった。
- 職員を含めて新聞への投稿意欲が向上し、積極的にかかわるようになってきた。

(2) 課題

- 教科関連を明確にした具体的な実践の積み上げと評価
- 主権者教育を含むキャリア教育や総合的な学習の時間などの指導計画への明確な位置づけ
- NIE教育の継続的な取組に向けての予算の確保
- 図書館教育と関連させて読書量の拡大と学力向上との関連づけ

5 おわりに

11月22日の中央教育審議会の文部科学省への答申の中で、主権者教育の推進にあたって新聞の積極的な活用が推奨された。その中で「民主主義を尊重し政治に参画しようとする国民の育成は学校教育の重要な要素の一つ」と指摘し、小学生では地域の身近な課題を知り、解決に向けて考えることの必要性が述べられた。

今年度の実践から、まず児童や保護者の新聞に対する意識改革ができたように思える。「取材が来たから載るもの。」というイメージではなく、「情報を知る。」「地域のことが分かる。」「自分の意見が述べられるもの。」というように変化してきた。

授業への取組は、まだ試行錯誤の段階ではあるが、今後も継続的に実践に取り組んで、積み上げをしていながら、より充実したNIE教育、新聞を活用しての学力向上を図る教育実践に取り組んでいきたいと考える。

平成29年度も独自認定校の指定を受けた。NIE教育を推進する上で、各学校への広がりをもたせていくために、椎葉村内の6校の実態把握や実践の交流を図り、新たなNIE活動へつながるように、本校が起点となり、教務主任会や自主研修会を通して村全体で取り組む体制を整えたい。